

KOBELCO

秋季号

Oct.2017 Vol.238

コベルコ建設機械ニュース

File.41

歴史的建造物誕生の
秘密を探る!

小樽運河

ガス灯ゆらめく港町小樽の象徴 時代に翻弄された 激動の運河

砂山幹博 || 取材・文
田中勝明 ||撮影

歴史的 建造物誕生の 秘密を探る!

File 41

年間約800万人を集客する北海道を代表する観光地「小樽運河」。もしかしたら、この風景は残されていなかつたかもしれない。激動の時代を経て、今私たちの前にその姿を現す運河の歴史を遡る。

一発逆転で小樽「運河」に
埠頭にかねかねの
海岸までの水深が浅いとき、
大量の荷物を積んだ船が（→）

陸に荷を下ろすにはどうするか。根本的に解決するためにはまず、陸地や海底を掘り込んだり、沖に向かつて埠頭ふとうを伸ばしたりして船を接岸させる方法がある。ほかにも最近では見かけなくなつたが、はしけ舟と呼ばれる小型の運搬船に荷物を載せ替えて運ぶ方法もある。この舟による荷役作業が主流だつた時代、静岡のために建設されたのが小樽運河だ。

「坂のまち」と呼ばれるだけあり、海岸線の背後に山が迫る小樽の街は平地が少ない。陸地を掘り込む余地がない分、沖に向かって海岸線を埋め立てて港が造られ、明治時代には北海道開拓の本拠地として、また北海道各地で採掘された石炭の積出港として利用された。

1900年代に入ると、ヨーロッパで産業革命が起こった影響で日本国内の経済が急速に発

て、石炭をはじめ木材や農産物などの物資が大量に積み出されたり。港は船で混み合い、倉庫も貨物であふれ、海岸線での荷捌きも滞った。大型船が直接接岸して貨物の出し入れができる「埠頭」の建設が計画されたのところが、歓米観察から戻つた。

場所が大幅に増え、埋め立て地には倉庫も新設され、貨物の収容力もアップした。完成の翌年には、小樽港に入港した船が6248隻とこれまでの最高を記録。第一次世界大戦で被害を受けたヨーロッパ諸国への物資輸送などで、小樽運河は早くも黄金期を迎えた。

運河の役割は急速に低下していった。

細長い島を造り、海岸線と埋め立て地の間にできた水路を運河にする「埋め立て式運河」が採用されたのだ。「埠頭にするには時期尚早」というのが変更の理由だが、当時の小樽の実情をよく表していた。埠頭にすると、小樽に千人以上いた船の積み卸しに携わる労働者の仕事が奪われてしまう。小樽ではまだ主流だった労働者の雇用が優先されたことで、小樽「運河」は誕生した。

1914(大正3)年に着工し、9年後の1923(大正12)年に完成した運河は、全長1314m、幅40m。船のつく

小樽運河が稼働すると街は大いに繁栄した。目抜き通りには銀行や商社の社屋が並び、人口も増加。1920年頃までは札幌よりも人口が多く、北海道経済の中心として機能するも、絶頂期は大正末期から昭和初期にかけての実質20年と短かった。

衰退のきっかけは足下で起きていた。運河建設中も、入港する船や貨物の取扱量は増える一方で、実際は貨物の荷役をするべて躰で行うには効率が悪くなっていた。対応を急ぐため埠頭の建設にも取りかかり、1940(昭和15)年に完成させた。その後も二号、三号と立



運河沿いの散策路には63基のガス灯が設置されている。日が暮れると辺りはガス灯の暖かい色に包まれる

この地でしか味わえない、その場所だから 楽しめる情報を届けします。	か わ れ ば
小樽市編	

わがまま丼



北のどんぶり屋 滝波食堂

0134-23-1426

JR小樽駅すぐそばの三角市場は、地元の人や観光客でぎわう小樽の名物市場。ここでぜひとも食べておきたいのが「わがまま丼」だ。ウニ、イクラ、ボタンエビ、カニなど11種類のネタから3品または4品選ぶと、海鮮丼にしてくれるうれしいメニューだ。鮮魚店直営の食堂ということもあって、極力冷凍物は使わず、いっくにいるものは注文されてからさばくというこだわりよう。名物のハッカクの刺身や焼き物といったサブメニューにも定評がある。(ご飯小サイズ ネタ3品 税抜き1,800円~)



ばんじゅう



正福屋

0134-26-6910

ドーム型に焼き上げた薄皮にあんこを包み込んだ今川焼にも似た小樽発祥のソウルフード。昭和30年代後半は小樽市内に16ものばんじゅうを扱う店があったという。1個80円(税込み)という破格の安さも魅力で、数十個単位で買っていく地元客も多い。カリッとサクサクに焼きあげられた皮の中には、高品質の北海道産の小豆で焼きあげたほどよい甘さのこしあんや粒あんをはじめ、クリームやごまくるみ、秋にはカボチャや栗も登場する。小腹が空いたときや食べ歩きにぴったりのスイーツだ。



おたる水族館



おたる水族館

0134-33-1400

年間35万人が訪れる北海道最大の水族館。大小70基余りの水槽には、北方系から暖かい海に棲む魚など250種類5000点もの生きものを展示している。見どころはなんといっても海獣ショー。イルカにアザラシ、ペンギンなど主役の顔ぶれが多彩。なかでも最大6頭のトドたちが同時に飛び込むトドショーは必見だ。遊園地も併設されているので、家族みんなで楽しむことができる。(入館料大人1,400円、小中学生530円、3歳以上210円)



歴史的
建造物誕生の
秘密を探る!

1. 小樽運河沿いにある小樽市総合博物館運河館は、今では少なくなった明治期の建物 2. 埋め立て前の姿を残す北運河。写真中央に係留されているのが現役を退いた船

2



海側に並ぶ雰囲気のある建物群は、運河が完成した当時の大正末期から昭和初期にかけてのものが多い

1. 1926(大正15)年の小樽運河。もともとの海岸線の形状に沿って運河が造られたので、緩やかに湾曲しているのが特徴
2. 荷が積まれた船が運河に着岸している様子(昭和初期)
3. 沖に停泊している船と運河の間を船が往復した(昭和初期)

すべて小樽市総合博物館所蔵



小樽運河の歩みは、まさに激動の歴史でした」
水路に沿って散策路やガス灯などが整備され、小樽観光の中⼼的な役割を果たしている現在の⼩樽運河。観光客は絶好の撮影ポイントがある南側に集中するが、「反対側にある『北運河』にも足を運んでほしい」と菅原さん。埋め立て工事を逃れた昔ながらの40m幅の水路がそのまま今も使われていて、片隅には役目を終えた船が一艘だけひつそりと係留されている。小樽運河の原風景はこの場所にだけ残っている。



山が海に迫り平地の少ない小樽は「坂のまち」。そのため陸を掘り込み、沖に島を造ってその間に運河とした

最終的には運河の南側を埋め立てて道路にすることで決着。小樽市総合博物館の学芸員の菅原慶郎さんは、運河が辿ついた歴史をこう話す。「埠頭になりかけながらも運河として生まれ、埋め立ての憂き目に遭いつつも大半を存続……。現在の小樽の象徴である

全国に発展した一大論争 開発か保存か

役目を失った運河には、ゴ

側の海運ルートが強化され、樽港に物資が入ってくることはほとんどなくなってしまった。経済基盤の揺るぎから多くの銀行や商社が撤退。活況を呈していた倉庫も扉を閉ざし、運河周辺はいつしかゴーストタウンのようになっていた。

うようになっていた。市民かと揶揄されるように。そしてらも「小樽斜陽化のシンボル」と揶揄されるように。そして1966(昭和41)年には、増え経済基盤の揺るぎから多くの銀と搬入されるよう。そして行や商社が撤退。活況を呈していた倉庫も扉を閉ざし、運河周辺はいつしかゴーストタウンのようになっていた。

として、小樽市が小樽運河を埋め立てて道路にする方針を打ち出した。工事が始まり、運河周辺の石造りの倉庫が次々に取り壊されていくと、小樽市民はようやく事の重大さに気がついた。無用になろうとも悪臭を放とうとも、小樽運河や石造りの倉庫は守るべき大切な財産だという想いは小樽市民の心にしっかりと根付いていたのだ。その後、小樽運河をすべて埋め立てて道路にする案を主張する小樽市に対し、全面保存を求める市民が対立。全国紙でも報じられる大論争へと発展した。

最終的には運河の南側を埋め立てて道路にすることで決着。小樽市総合博物館の学芸員の菅原慶郎さんは、運河が辿ついた歴史をこう話す。「埠頭になりかけながらも運河として生まれ、埋め立ての憂き目に遭いつつも大半を存続……。現在の小樽の象徴である

3Dデータを基盤に「設計」「施工」「検査」を貫く円滑な情報施工の流れを創出

ホルナビ3Dマシンガイダンス
搭載SK350LC-9/SK235SR-3

太田利之 取材・文
三浦泰章 撮影

●今回の訪問先は
マルフジ後藤重建
所在地／静岡県掛川市
大池128-1
☎0537-24-4510
創業／1971年
事業内容／機械土木造成業
従業員数／20名

「ホルナビ」を導入
「歩先の土木造成業へ



ホルナビを搭載したSK350LC-9が、パワフルに河底を掘削していく

ICTの活用で作業効率が大幅に向

ホルナビ搭載機の目下の活用現場は、静岡県袋井市と磐田市の境界付近。県西部を流れる太田川と原野谷川の合流地点の「二級河川太田川広域河川改修事業」だ。これは、地震による津波や大雨等による洪水被害への備えとして、三角州状に堆積した太田川の土砂を掘削し、河道を築くものである。

川底は目視できないうえに、干満潮時の水位差が1・5～1・8mに達するため満潮時には作業ができない。そんななかで、水を含んだ柔らかい河床を相手にする河道掘削には、独特の難しさがある。さらに、従来は自安杭や丁張りなども人が水に入つて設置する必要があり、それらが現場の安全確保や工期においてばく影響も少なくなかつた。同社の統括・夏目勝さんは、「3Dデータの活用により、XYZ軸上の正確な位置や深さなどを示され、事前の丁張りも不要に。作業効率は1・5倍以上アップしたと感じています」

自慢の技術力とICTで次代の施工文化を創造

この現場の当初の掘削量は、8000m³の予定だったが、ドローンなどによる詳細調査の結果、2・5倍の2万m³の工事となることが判明した。一方、大型連休を挟む40日間という工期は至上命令。後藤さんは、そんな厳しい条件下でも、「やります」と即答したという。

「設計の掘削指示を3Dでナビゲーションする『ホルナビ』は、現場を熟知し水深の変化などを臨機応変に対応しながら、常に最終的な出来形をイメージできる技術者が使ってこそ、本来の力を発揮するのです。だからこそ、『私たちならできる、と確信しました』（後藤さん）また各自が仕事に誇りをもち、機械を大切にする気持ちを育むために、以前から各マシンはオペレーター一人ひとりに紐付けした『1人1台体制』を徹底。ただ、「ICTは優れた技術者

が活用してこそ意義がある」という考え方から、ホルナビ搭載機はベテランの活用を中心とした共同利用を図っている。「実は3Dナビゲーションによ

る掘削は、『将来を見据えて、ともに情報化施工を進めましょう』と私たちから元請け会社に逆提案したのです」（夏目さん）提案を受けた石川建設株式会社の現場所長岩田雅和さんは、その経緯をこう振り返る。「提案により、私たちも上流の設計工程から3D化を推進。施工後の出来高検査も3D計測を用いるプロセスへ変更を進め、本工事をICT活用のモデルケースにすることを決定しました」その結果、40日間の短い工期予定期をさらに数日前倒しして施工完了できたという。

「この成果を基盤に、情報化施工を次の防潮堤工事でも積極的に活用し、技術力とICTを融合させた新しい施工文化を築いていきます。また、そのなかで技術を継承する若手の採用などを含めた陣容拡大を続けていくんですね」（後藤さん）

マルフジ後藤重建は、1971年、代表の後藤義隆さんが23歳で創業。コベルコとの関係は、83年にYS1200を導入してから30年以上続いている。ボーマク社製の転圧ローラ機やダンプカーなども多数保有しているが、11台ある油圧ショベルはすべてコベルコ製だ。



ICTで精度とスピードがさらにアップしました！

「実は3Dナビゲーションによ

る掘削は、『将来を見据えて、ともに情報化施工を進めましょう』と私たちから元請け会社に逆提案したのです」（夏目さん）提案を受けた石川建設株式会社の現場所長岩田雅和さんは、その経緯をこう振り返る。「提案により、私たちも上流の設計工程から3D化を推進。施工後の出来高検査も3D計測を用いるプロセスへ変更を進め、本工事をICT活用のモデルケースにすることを決定しました」その結果、40日間の短い工期予定期をさらに数日前倒しして施工完了できたという。

「この成果を基盤に、情報化施工を次の防潮堤工事でも積極的に活用し、技術力とICTを融合させた新しい施工文化を築いていきます。また、そのなかで技術を継承する若手の採用などを含めた陣容拡大を続けていくんですね」（後藤さん）



3

3.石川建設・現場所長の岩田雅和さん。「今回の施工でICT活用の先鞭が切れたと自負しています」



2

1.ホルナビ搭載機種では、後方に設置したアンテナで衛星情報を受信している
2.河床は掘削した先から埋まっていくので、作業後に最適値になるよう指示値よりやや深めに掘る。そのため、画面上は赤色表示となるが、その加減がベテランの技だという



6.ホルナビ搭載機をはじめ、多くのコベルコ機の活躍により河道切削工事をスピーディに実行することができた



5

4.オペレータの長濱和利さん。「ホルナビを初めて活用しましたが、丁張りなどを気にすることなく、安全と正確性の両立が実現しました」
5.オペレータの石原隆寛さん。「ホルナビは図面に基づくガイドラインに沿って作業するので、若手や女性の活躍にも貢献できると思います」

「3Dデータの活用により、X-Y-Z軸上の正確な位置や深さなどを示され、事前の丁張りも不必要に。作業効率は1・5倍以上アップしたと感じています」

「3Dデータの活用により、X-Y-Z軸上の正確な位置や深さなどを示され、事前の丁張りも不必要に。作業効率は1・5倍以上アップしたと感じています」



統括
夏目 勝さん

「実は3Dナビゲーションによ

る掘削は、『将来を見据えて、ともに情報化施工を進めましょう』と私たちから元請け会社に逆提案したのです」（夏目さん）提案を受けた石川建設株式会社の現場所長岩田雅和さんは、その経緯をこう振り返る。「提案により、私たちも上流の設計工程から3D化を推進。施工後の出来高検査も3D計測を用いるプロセスへ変更を進め、本工事をICT活用のモデルケースにすることを決定しました」その結果、40日間の短い工期予定期をさらに数日前倒しして施工完了できたという。

「この成果を基盤に、情報化施工を次の防潮堤工事でも積極的に活用し、技術力とICTを融合させた新しい施工文化を築いていきます。また、そのなかで技術を継承する若手の採用などを含めた陣容拡大を続けていくんですね」（後藤さん）

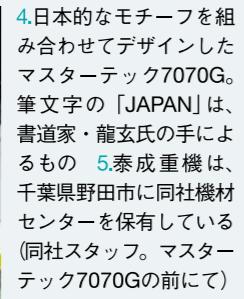
東急JVによる東京メトロ銀座線渋谷駅の移設工事で稼働するマスター・テック7070G。この日は仮設線路用の6.2tある工事桁を、高架上へ引き上げる作業に従事していた



12.再開発が急ピッチで進む渋谷駅一帯の稼働現場。JR、私鉄、地下鉄の6駅8路線が集中する巨大なターミナルで、列車運行を止めずに工事を進めるのは、世界的に見ても極めて高度なプロジェクトだという



1



4.日本のモチーフを組み合わせてデザインしたマスター・テック7070G。筆文字の「JAPAN」は、書道家の龍玄氏の手によるもの。泰成重機は、千葉県野田市に同社機材センターを保有している(同社スタッフ。マスター・テック7070Gの前にて)

3.マスター・テック7070Gのオペレーター、平山久美さん。泰成重機では男女問わずに門戸を開き、オペレーターを育成。平山さん以外の女性オペレーターも活躍中だ



3.マスター・テック7070Gのオペレーター、平山久美さん。泰成重機では男女問わずに門戸を開き、オペレーターを育成。平山さん以外の女性オペレーターも活躍中だ



5.泰成重機は、千葉県野田市に同社機材センターを保有している(同社スタッフ。マスター・テック7070Gの前にて)

が進行中。そのなかで泰成重機が担当しているのが、東京メトロ銀座線渋谷駅の移設工事だ。現状、建物の3階にある東京メトロ銀座線のホームを、東に130m、フロアは2階へと移設する。また、線路の両側に2つのホームがある方式から、ホームを中心線路が両側に通る島式型へと変更する計画だ。しかし、銀座線渋谷駅は利用客が1日平均22万人という規模。ゆえに地下鉄を運休しての工事はできない。取締役の横山さんは、「作業ができる時間は、終電後の深夜から始発前までに限られます。ミスがあれば何万人もの足に影響するので、緊張感を持って取り組んでい

が進行中。そのなかで泰成重機が担当しているのが、東京メトロ銀座線渋谷駅の移設工事だ。現状、建物の3階にある東京メトロ銀座線のホームを、東に130m、フロアは2階へと移設する。また、線路の両側に2つのホームがある方式から、ホームを中心線路が両側に通る島式型へと変更する計画だ。しかし、銀座線渋谷駅は利用客が1日平均22万人という規

模。ゆえに地下鉄を運休しての工事はできない。取締役の横山さんは、「作業ができる時間は、終電後の深夜から始発前までに限られます。ミスがあれば何万人もの足に影響するので、緊張感を持って取り組んでい

コベルコ現場最前线 REPORT

力強いデザインのクレーンで 現場〈渋谷〉から 日本の技術力を世界へ! マスター・テック7070G(7070G-2)

織田信孝 = 取材・文
三浦泰章 =撮影

text by Nobutaka Oda / photograph by Yasuaki Murai



今回の訪問先は
有限会社泰成重機
所在地／埼玉県川口市戸塚東
2-12-6-102
☎ 048-295-7290
創業／1983年
事業内容／クローラークレーンの
オペレータ付き賃貸(リース)業
従業員数／36名



今回、泰成重機のロゴを手がけた書道家の龍玄氏



コベルコ製クレーン 1台を携えて創業

泰成重機は、代表取締役の横

山良一さんが、コベルコ製クレーン1台を購入して創業した。横山さんの長女で、専務取締役を務める横山理恵さんは、「創業当時、父はクレーンとともに地方の現場へも赴き、母も配達業で経営を支えるなど、子どもの頃から額に汗して働く両親の姿を見て育ちました」と、当時を振り返る。

こうした苦労や努力が結実し、今ではゼネコンによる建設工事を中心に手がけるなどの企業へと成長。保有するクレーンも34台にまで増加した。創業時から慣れ親しんだコベルコ製クレーンを継続的に購入しており、保有機の8割はコベルコ製。横山さんのクレーンに関する知識と経験の豊富さから、コベルコの開発部門からしばしば提案を求められ、勉強会を開くこともあります。あるという。

泰成重機は、埼玉県川口市に1983年に本社を構え創業。現在はオペレータ付きのクレーンリース業を中心に事業を展開している。今回は、東京・渋谷駅前の再開発工事現場を訪問。そこで稼働するマスター・テック7070Gの活躍と、機械に込められた同社の想いをリポートする。

緊張感のある現場で光る 泰成品質の確かな技術力

2017年現在、東京の渋谷駅一帯では大規模な再開発事業



専務取締役
横山理恵さん

代表取締役
横山良一さん

目に留まるラッピングで
建設業の魅力をPR

泰成重機のマスター・テック

7070Gには、個性的なデ
ザインが施されている。富士
山、日の丸、侍、浮世絵風の波
に、「JAPAN」の筆文字——。この
デザインについて理恵さんは、
こう説明する。

「社長には以前から、『建設現
場のイメージをポジティブにし
たい』という熱く深い想いがあ
りました。そんななかで渋谷の
この「JAPAN」の筆文字——。
このデザインについて理恵さんは、
こう説明する。

渋谷の現場からは、泰成重機
の高いクレーン技術とともに、
「建設業のイメージを変える」
という熱い想いも感じられた。

渋谷には外国人観光客も多
く、このクレーンには日本の優
れた建設技術を世界にPRする
とともに、インバウンドに貢献
する狙いもある。実際に、渋谷の
空にそびえるクレーンを撮影し
た写真はSNS上でも好評で、
新たなデザイン機も検討中だと
いう。

渋谷の現場からは、泰成重機
の高いクレーン技術とともに、
「建設業のイメージを変える」
という熱い想いも感じられた。

Q2.

国の「メタボ健診」受診目標は70%。 中小企業主体の協会けんぽでの実施率は何%?

- a. 43% b. 53% c. 63% d. 73%

平戸孝之=イラスト
Illustration by Takayuki Hirato



「従業員の健康増進を通じて生産性や業績を高める「健康経営」の取り組みが中小企業に広がってきた」（日本経済新聞電子版2017年7月31日付記事より）

「健康経営」への関心広がる―― 人手不足解消と生産性向上へ一手

一例を挙げると、包装機開発で従業員約30名の日本テクノロジーソリューションは16年、テルモなど大企業が健康増進策を共有する「KENKO企業会」に入会した。生活習慣病を予防する法定の特定健診に加え、実施義務のないストレスチェック

もほぼ全員が受診。来年移転する新社屋にはシャワー室を設置し、自転車通勤も促すという。産業界では、健康管理は従業員の責任、という意識が強く、とりわけ中小企業では後回しになりがちだった。その実態として、「特定健診の実施率は大企業などの健康保険組合に加入する従業員で7割超だが、中小企業が多い全国健康保険協会（協会けんぽ）は43%と政

府の全体目標（70%）を大幅に下回る」（同）というデータもある。なぜ今、健康経営への関心が高まっているのか。理由の1つは人材不足だろう。企業の生き残りには従業員一人ひとりが健康で長く働ける仕組みと環境作りが必須となっているのだ。

行政もこれを後押しす

る。「経済産業省は今年、経団連などが主導する『日本健康会議』と協同で、経営者が率先して健康増進に取り組む中小企業を『健康経営優良法人』として認定する制度を設けた」（同）。また日本政策投資銀行は、健康に関わる社内制度の整備を条件に低利融資する「健康経営格付」を実施。中小企業が、従業員への健康配慮を積極化。従業員の健康促進費を投資と捉えることで業績の向上につなげる考え方方が生まれた。実際、米国の優良健康経営表彰企業と代表的な株価指数の企業に各1万ドルを投資した場合、13年後に前者の株価は1万7871ドル余りに、

は、欧米では1990年代から注目されてきた。将来的な労働人口の減少を予測し、生産性の向上が重要課題だと判断した企業が、従業員への健康配慮を積極化。従業員の健康促進費を投

資と捉えることで業績の向上につなげる考え方方が生まれた。実際、米国の優良健康経営表彰企業と代表的な株価指数の企業に各1万ドルを投資した場合、13年後に前者の株価は1万7871ドル余りに、

経済ジャーナリスト
和上陽子

東京外国语大学卒業後、日本経済新聞社に入社。日経ホーム出版社（現在の日経BP社）月刊誌「日経マネー」の編集を経て、退社。独立後は、経済・金融の各種専門誌などに寄稿するなど、経済ジャーナリストとして活躍中



クイズを解けば
“いま”が分かる
この記事に
注目!

近頃気になる日経媒体の記事をピックアップ。その報道の背景にある「時代性」を探るコーナーです。まずはクイズに挑戦！ 答えは解説文中にあります。楽しみながら“現代を知るヒント”を探してみませんか？

Q1.

国内で予測されている、 2030年度のAI関連市場の規模は？

- a. 1兆円 b. 1兆3200億円 c. 2兆円 d. 2兆1200億円

長岡市でAIビジネス始動
地域に根付いた技術開発に活路

A-Iビジネスを巡る競争が地方で加速している。

「人工知能（AI）のソフト開発などを手がけるJIEI（東京文京）は17年9月、新潟県長岡市内に研究拠点を開設する」（日本経済新聞電子版2017年8月16日付記事より）

大量のデータなどをもとにコンピュータ自らが学習するディープラーニング（深層学習）の技術を得意とする同社が、新設した子会社「A-IUE」を通じ、農業や漁業の効率化などに関するAIを開発。新会社では、積雪や海洋資源などのデータを集めてAIを活用し

には長岡市が「IoT（Internet of Things）」の普及や、将来の起業家の育成に積極的で、企業のAI導入への基盤となる環境整備を促す姿勢を明示しているからだ。なぜ大都市ではなく中越の地方都市なのだろうか。1つには長岡市が「IoT（Internet of Things）」の普及や、将来の起業家の育成に積極的で、企業のAI導入への基盤となる環境整備を促す姿勢を明示しているからだ。

「2017年度から、中小企業向け『ものづくり未来支援補助金』と『产学研金連携研究開発補助金』を拡充、IoT環境整備のための設備投資や研究開発を補助

と予測している」（同）。このことからも、勝敗を決めるキーワードの1つが、AIや「IoT」などであることは間違いない。地域に根付いた発展を目指す企業にとって、最新技術の動向も目が離せない。

の対象に加えた」（同）
また同市には、長岡技術科学大や長岡造形大、長岡高専があり、AIの研究開発に必要な人材を採用しやすい面もある。
ところで、日本創成会議の人口減少問題検討分科会が14年、「2040年までに全国約1800市區町村のうち約半数の896市區町村が消滅する恐れがある」との発表をして物議をかもした。少子高齢化や、立地行かなくなる自治体が少なくなるのではないか、という研究結果だ。

しかし、そうとも限らない。

十分に魅力的なインフラが整つていれば、逆に都市から地方へ人口流入もあり得るだろう。

21世紀は都市間競争の時代。「富士キメラ総研による」と、AI関連市場の規模は20年度に1兆20億円、30年度に2兆1200億円に拡大する

日本経済新聞電子版 2017年7月31日付

日本経済新聞電子版 2017年8月16日付

Wind 3 from
三重
Mie

鈴鹿8時間耐久ロードレース

2017年7月27~30日の4日間、三重県の鈴鹿サーキットでFIM世界耐久選手権（EWC）最終戦・鈴鹿8時間耐久レースが行われました。コベルコ建機は、インドネシアのクレーンユーザであるGTA様とともに、TRICK STAR RACING様に協賛。KOBELCO、GTA様ロゴの入ったバイクが、鈴鹿サーキットを疾走しました。

30日に行われた決勝戦では、TRICK STAR RACINGチームは14位でゴール（68チーム参戦）と、少し悔しさの残る結果に。EWCランキングでは10位となりましたが、チームには新たなチャレンジに向けた準備と戦いが待っています。



1.ギャラリーの注目を集めたのが、『新世紀エヴァンゲリオン』とコラボレーションしたカラーのマシン。前輪近くには「KOBELCO」「GTA」のロゴが光る
2.目にも止まらぬ速さで疾走するTRICK STAR RACINGの勇姿

Wind 1 from
愛知
Aichi



デモンストレーションで披露された3Dマシンコントロール搭載のSK200-9



[コベルコの風]
日本全国、そして世界各国での
コベルコの活動をリポート！



Wind 5 from
千葉
Chiba

市川で秋の展示会が開催決定！

今年も東日本コベルコ建機市川本社で秋の展示会が開催されます。新商品をはじめとした多数の実機展示や見ごたえのあるデモンストレーションなど、これまで以上にお楽しみいただける企画を多数ご用意しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

[開催概要]
日時：2017年10月28日(土)、29日(日)
会場：東日本コベルコ建機(株)市川センター
千葉県市川市二俣新町17番地 ☎ 047-328-7111

Wind 6 from
香川
Kagawa

林業展示会への参加が決定！

「2017森林・林業・環境機械展示・実演会」が開催されることとなりました。本展示会にはコベルコ建機も出展し、オフロード法2014年基準適合の新型林業仕様機をはじめとした多数の展示を予定。皆様に楽しんでいただけるブースとなるよう、現在準備を進めています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

[開催概要]
日時：2017年11月19日(日)、20日(月)
会場：香川県坂出市 番の州臨海工業団地県有地

Wind 4 from
福岡
Fukuoka

北九州クレーン協会が 高等学校でクレーン体験学習を実施

2017年9月6日、北九州クレーン協会が福岡県立八幡工業高等学校にて、生徒向けの体験学習を開催。コベルコ建機は、その講師を務めました。

体験学習では、参加した40名の生徒に対し、クレーン業界に関わる職業や業種を説明。生徒の方々は熱心に耳を傾けていました。また、ラフテレンクレーンと高所作業車の実機を用いた操作体験も実施。初めて操作するクレーンに緊張した様子でしたが、指導員の説明を受けながら操作をしていくうちに、参加者の顔にも笑顔が見られるようになりました。

昨今、人手不足が課題となっている建設業界。若者が興味・関心を持つきっかけとなった今回の体験学習は、非常に有意義な催しとなりました。

クレーンの運転操作を説明する様子。当日はテレビ局の取材も



中部支社で展示会を開催

2017年9月9・10日に西日本コベルコ建機中部支社にて、「新しい風を起こせ NEW Generation コベルコ秋の大展示会2017」が開催されました。

本展示会では、発表後初のお披露目となった「K-EYE PRO（衝突軽減システム）」搭載のSK200-10、ニコン・トリンブル社製3Dマシンコントロール搭載のSK200-9の2機種の試乗コーナーを設置しました。また、オフロード法2014年基準適合の新型機であるSK200-10とSK135SR-5、木造家屋解体専用機SK30UR-6などを展示。さらに、新型機によるデモンストレーションや特選中古機の展示販売など、さま



2日間とも晴天のなかで展示会を開催することができました



「ホルナビ+PLUS」の販売を開始！

コベルコ建機では、ホルナビ2D、3Dマシンガイダンスの新たなオプション設定として、3Dマシンコントロール機能「ホルナビ+PLUS（ホルナビ・プラス）」の販売を開始しました。これは、1つのレバー操作でブームとバケットを自動制御し、設計面に沿った仕上げが可能となるシステム。熟練オペレータと同等の作業スピードで、現場の生産性向上に貢献する機能です。

この「ホルナビ+PLUS」は、ホルナビ・ジョブサイトにて試乗することができます。詳細は各営業担当者へご相談ください。

